

ではならないと思っています。

市民に開かれた大学として、公立学校の教育現場を支援

―神戸市の大学という立場で公立学校教育にも協力していますね。

久元 神戸市外大と教育委員会は2008年に連携協力に関する協定を結んでいます。神戸市立学校の教員に対する指導、大学院生・学部生の皆さんには小中学校教育活動への支援をいただいています。地元の西区に限らず、市内全域について可能な範囲で指導や支援をいただきたいと思っています。

船山 今や年中行事になっている地元の小学生の「外大訪問」では、子どもたちだけでなく本学の教員・職員も楽しんでます。子どもたちは英語でちゃんと挨拶してから、用意した質問をします。主にネイティブの先生方が熱心に対応し、たくさん答えが返ってくる子どもたちはちょっと困惑している様子です(笑)。

船山 秋の大会開催を希望する世界各国の大学の中から、日本で初めて神戸市外大が選ばれました。今まで参加してきた本学学生たちの実績が評価されたと思っています。今年3月のNY本大会では、二つの賞を受賞しました。学生たちは「国際社会で声を出さない者は存在しないも同然だ」と痛感し、自分の意見を持ち、はつきりと述べ、交渉する力を付ける必要性を認識したと言います。控えめな本学学生に刺激を与え、全国の学生たちにも広がり、模擬国連で活躍できるまでに鍛え抜かれたチームが増えることが、国際社会での日本人の弱さを改善するきっかけとして役に立っているのではないかと考えています。

久元 さまざまな民族・文化・宗教的背景をお互いが認め合う伝統があるといわれる神戸も含め、日本は非常に同質性が高く99・9パーセントが日本語を話し、空気を読む「阿吽(あうん)の呼吸」が支配的です。明確な言語的手段を駆使する必要のない状況に置かれた国は、今や世界でも例外的です。日本



小学生をキャンパスに招く「外大訪問」

―現役の先生方への指導とは？

船山 大学院で、現役小中高の先生方自身が英語の勉強をやり直そうという斬新なプログラムがありますが、志願者が減りつつあることを危惧しています。学校現場が忙し過ぎて、週末の講義を受ける余裕がないのでしょうか。神戸市の多忙化解消への取り組みが功を奏したのでしょうか、最近は少し盛り返ってきています。

久元 学校で朝早くから夜遅くまで先生方が仕事に追われている状況を改善しようと、教育委員会が中心になって努力しています。今年1月に策定した

人が国内で取っている行動様式を国外で取っているはグローバル社会ではまさに「存在しない者」になってしまいます。意見が違う人たちとの交渉は比較的簡単かもしれませんが、全く知らない異質な人々とコミュニケーションを取るには経験を積むしかありません。そういう意味で模擬国連は有意義な機会だと思います。

―最後に久元市長から今後の神戸市外国語大学に向けてのエールを！

久元 神戸市は設置者としての責任をできる限り果たしていきます。市民の税負担で支えられているわけですから、卒業生が各界で「きら星」のごとく輝き、市民に対して存在感をアピールできれば、それが教育環境の向上や外大の発展につながります。この「好循環」がうまく働き、グローバル社会で縦横に活躍する力強い人材が巣立っていつてくれると期待しています。

教育大綱では、多忙化対策を前面に打ち出しました。ところが、県・市の教育委員会、文科省など役所が多忙化の原因を作っていることも多々あります。山のように送られてくる照会や調査、市民向けの配布資料などに対応しなくてはなりません。中にはメールからダウンロードして、印刷、仕分けし配布するよう指示する、とんでもない例もあります。そこで昨年10月には、学校への資料配布を禁止しました。他にも、家庭ですべき教育を学校にもち込まないなど、二つひとつ改善しながら多忙化を解消し、先生方が授業や個別指導のノウハウ、教科の能力や自分を高めるための時間を確保できる環境を整えることが、教育水準のレベルアップのために大切だと考えています。

模擬国連開催をきっかけに、国際社会で活躍する日本人を育てよう

―70周年の今年、NMUN模擬国連(※)開催という大きな事業がありますね。

※「模擬国連」とは、実際の国際連合の会議をシミュレーションする教育活動で、参加者は割り当てられた国連加盟国の役割を担い、その国の利害を代弁し関係国外交団との交渉・議論を行い、問題解決への合意形成を図る。世界中で開催されている模擬国連の中で最大規模の大会が「NMUN(National Model United Nations)大会」で、毎年春にニューヨークで実際の国連本部施設を使用して約5千人規模で開催され、秋には世界各地の大学がホスト役を務めて開催される。



模擬国連世界大会ニューヨーク本大会では2つの賞を受賞。久元市長に報告を行った